

# 浮世絵

Ukiyo-e: "Pictures of the Floating World"

その時代の人々の仕事と遊びといった生活を描き出した、世の中の本当の感覚について描いた風俗画は16世紀の終わりころに現れ始めました。

はじめは京都で、その環境が風俗画の背景となっていました。17世紀の終わりになるとその重点は将軍がつくった大きな軍事的、商業的、文化的な中心都市江戸に遷ってゆきました。

もとは裕福な上級武士のために創られた、豪華な風俗画が官許の売春地区を参照する浮世絵 "pictures of the floating world" として知られる新しい様式の美術の基礎となりました。

浮世絵流派の通俗美術は、17世紀から19世紀の日本の都市の売春宿と劇場のせつな的で、歓喜にみちた世界を、一部は真実の、また一部は想像上の絵として表現しています。

大部分の売春宿の直面する汚い現実— 性的虐待、墮胎、病気、そして早死— を美化しているのにもかかわらず、浮世絵の作品は、その洗練された架空の表現と、歓楽地の住人を中心においた詩的な物語とを、強く知的に融合させることに成功しています。

この文字通りの洗練さは、ある程度まで特に音曲、和歌、書に関する多くの高級娼婦の否定できない文化的な教養を反映しています。

浮世絵は安い木版画とそれを挿絵に入れた本によって大衆化しました、しかしここに展示されているような高級浮世絵(肉筆画)は裕福な貴族の要求に応じたものです。